



発行 (公社) 滋賀県サッカー協会
責任者 専務理事 前田 康一
〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地
TEL:077-585-0982 / FAX:077-585-0983
e-mail shiga@oregano.ocn.ne.jp
URL http://www.shigafa.com
印刷：スペース工房

JFAサッカーファミリー タウンミーティング・応援会議を終えて

公益社団法人滋賀県サッカー協会 (SFA)
会長 松田 保

2016年12月10・11日、JFAより田嶋会長をはじめ岡島専務理事・岩上事務総長など8人のスタッフが滋賀にお見えになり、滋賀県からは三日月知事・宮本守山市長をはじめ県体協・教育委員会・守山市議会・SFAなど80余名のサッカーファミリーが一堂に会し、知見を共有することができました。多くの実りある意見を出していただき、時間が足りないくらい熱心に議論を重ねていただきました。本当に素晴らしい、未来に繋がる貴重なミーティング・応援会議となりました。年一回はこのような機会をSFAで持つべきだと多くの方からアドバイスをいただき、ぜひ来年度からSFAタウンミーティングを実現していきたいと考えています。



日本サッカーは百年以上の長い歴史を持つが、1960年代までのマイナーな時代から、1964年東京五輪ベスト8を経て1968年メキシコ五輪の銅メダル獲得以降、日本リーグの開催やトレセン制度・指導者養成の先駆けなど日本スポーツ界に大きな改

革やムーブメントをもたらしてきました。特に1993年リーグの発足と「スポーツ文化を地域に根差すリーグ百年構想」の理念、そして2002日韓W-CUPの成功は野球と並ぶ人気プロスポーツに発展し、世界で活躍する日本選手を数多く輩出してきました。

滋賀県でも2003年ポストW-CUP重点目標のキッズプロジェクト・グリーンプロジェクトとフットボールセンター創設に積極的に参画しました。以来10数年、グラスルーツの成果を全国に発信するモデルFAとなり、Jリーガー輩出率は全国第4位となっています。さらに世界の育成王国ベルギーのようなキッズからの一貫指導システム (Biwako's Way) を県内各地域で確立させ、現在世界スタンダードで活躍している乾 (エイバル) 奥川 (ザルツブルク) 中井 (レアルU-14)、日本代表の岩崎 (U-19)・山田 (U-15)・中野 (U-15)・中島 (なでしこ)・中野 (なでしこU-23) 選手などのような、びわ湖から世界へ飛び出す選手・指導者・審判員を数多く輩出したいものです。

全国五指に入る古い歴史と伝統を持つSFAは、2007年「スポーツ文化の創造」「滋賀県民の幸せ」「社会貢献」「フェアプレー」のあくなき追求と、日本を代表するプロサッカーチーム「オール滋賀 (仮称)」を出来るだけ早期に具現化してゆくと宣言しました。滋賀県民の「夢・誇り」となる「オール滋賀 (仮称)」が昨年の鹿島アントラーズのように、何れリーグの覇者となり世界大会のファイナリストとなる日を夢見たいものです。

1979滋賀総体・1981びわこ国体の気運に乗って日本のトップレベルに育った滋賀のス

ポーツは、10年余り全国レベルで活躍しました。サッカー界では1992年長浜ドーム竣工記念行事で日本代表や日本リーグで活躍する望月・美濃部・上野・井原選手などを擁するオール滋賀と、当時日本リーグ覇者の日産自動車が対戦し、見事オール滋賀が3-1で勝ったのです。1993年5月Jリーグが発足しましたが、当時滋賀に15千人収容のサッカー場があれば、Jリーグに参入して優勝争いが出来たのです。しかし1981びわこ国体以降殆ど施設の整備もされず、現在の滋賀のスポーツ環境は日本の最底辺となっています。二巡目国体までの7年と、その国体を通過点とする百年構想の10年・20年ビジョンの推進は、滋賀をスポーツ王国にするための、またとないチャンスです。今も県外に流出し続けている多くの優秀な選手が、滋賀で大いに活躍して、滋賀をスポーツ王国にするための環境を、今から着実に整えてゆかねばなりません。

1999年ユネスコスポーツ担当大臣会議で「身体活動への1ドルの投資は、医療費3.2ドルの削減につながる」と宣言しました。2016年日本の医療福祉関連費が30兆円を超え、国家予算の3分の1を占めました。さらに老人大国となる10年後20年後を想定した取り組みが今から実施されなければ、これら全てのお荷物 (負の遺産) は次代の子供たちが背負うこととなります。スポーツ大国ドイツに倣う「国家百年の計 (Jリーグ百年構想)」「スポーツ文化を地域に根差す (スポーツの生活化)」「0歳から百歳までのスポーツ・フォア・オール」や2011年制定されたスポーツ基本法が謳う「スポーツでもっと幸せな国へ」「スポーツ権は基本的人権のひとつ」等のスローガンを確実に実現してゆかねば日本の未来はありません。これらは知事をはじめとする各市町首長が具現化しなければならない義務であり責任です。



かつてはマイナーだった滋賀県サッカー界は、日本のモデルFAとなるグラスルーツの成果として、現在滋賀県体育協会の加盟登録者数で18千人を超え、2位のバスケットボール協会の2倍以上のエントリー数となっています。したがって滋賀のサッカーファミリーは18万人以上になると推定され、滋賀のスポーツ発展のためにリーダーシップを持って、牽引してゆかねばならない使命を持っています。サッカーファミリー・スポーツ仲間や県協会と地域協会が力を合わせたボトムアップのパワーと、行政や経済界など産官学民が一体となって、今こそ「スポーツでもっと幸せな滋賀」を創ってゆかねばなりません。

第6回滋賀県サッカーカンファレンス開催

技術委員長 梅田 英幸

カンファレンスの目的

滋賀県のサッカーに関わる者 (関係者、選手、指導者、審判等) が一堂に集い研修することで、滋賀県のサッカーの発展に寄与することであります。
1 2月17日 (土) に6回目となるカンファレンスが開催されました。

主な内容

第1部

- 講義① 「ウェルフェアオフィサーの活動について」
- 講義② 「滋賀県TS G報告」
- 講義③ 「技術と審判の協調」
- ディスカッション 「4種年代の育成について」

第2部

- 指導実践・実技 「U-12県トレセントレーニング」
テーマ：ゴールを奪う
- 講義④ 「4種年代のTS G報告」

【第1部】

講義① 県サッカー協会専務理事の前田康一氏による「ウェルフェアオフィサーの活動について」の講義がありました。ウェルフェアオフィサーの導入は、『サッカーの活動において、今後一切の暴力を根絶する』という方針の下に2015年6月にJFA理事会で承認された新たな取り組みであり、その役割や考え方、マッチコミッショナーとの違いなどの内容でした。

講義② TS Gとは、テクニカル・スタディ・グループの略称で、

1. 現代サッカーのトレンドを知る
2. 滋賀県の立ち位置の確認
3. 今後の示唆

という目的があります。昨年の提示からの今年度の取り組み、成果と課題、そして2017年に向けての提示がありました。(内容につきましては、県サッカー協会HPをご覧ください。)

講義③ 滋賀県出身である1級審判員の村井良輔氏から「審判の現在地」という副題で、2016年JFA審判員概要、1級審判員の生活や求められる要素、姿勢について話がありました。審判講習会では聞くことができない内容も多く、たいへん好評でした。

ディスカッション 「4種年代の育成について」というテーマで、種別を越えた交流の場として好評でしたが、種別を分散させるグルーピングの工夫や、発表の場の設定などの課題が残りました。

【第2部】

指導実践・実技 「ゴールを奪う」をテーマにU-12県トレセンスタッフによる指導実践が行われました。ナショナルトレセンコーチの菊池彰人氏の指導や助言もあり、コーチング法や指導ポイントの確認もできました。受講生は同じメニューで実技を行い、意見交換や質疑応答を行いました。

講義④ 「4種年代のTS G報告」というテーマで、JJ PとFF Pから菊池彰人氏による講義がありました。JJ Pとは、JFAとJリーグ協働プログラムの略で、その中の日本代表強化指針共有研修会での内容に触れながら、コーチング法の確認が行われました。FF Pとは、フットボール・フューチャー・プログラム/トレセン研修会U-12のことで、2015年から8月に開催されている研修会です。試合やトレーニングの映像を用いて日本サッカーの成果や課題が報告されました。

今年度は1日開催としました。のべ50名程のサッカー仲間が交流、情報交換をし、滋賀県のベクトル合わせの一助になったのではと思っています。次年度は12月16日 (土) に栗東芸術文化会館さきで開催をしますので、是非ご参加下さい。

〈追記〉

1月7日～9日に広島県で開催された、JFA第10回フットボールカンファレンスに参加しました。参加者は約1000名で、滋賀県からの参加者は15名程でした。JFAの取り組みや報告、世界のトレンド、各国の取り組みなどを共有してきました。何年後かには、滋賀県でもJFAのカンファレンスを開催したいと強く感じました。その時は是非ご協力をお願いいたします。



第 26 回全国専門学校サッカー選手権大会を終えて

ルネス学園甲賀サッカークラブ 監督 城山 昌人

26年前に誕生したこの大会は、普段から医療、美容、スポーツ、コンピュータなどいろいろな分野のプロフェッショナルになるために勉学に励んでいる専門学生にスポーツを通じて感動体験を味わってほしいとの願いからスタートしました。また、サッカー競技以外にも6つの文部科学大臣杯を戴き、全国各地で大会を行い専門学校生の健全な心身の発達にも寄与しております。

そして26回目を迎えた全国専門学校サッカー選手権大会は、北の大地北海道で開催されました。ルネス学園は、マイクロバスを福井県敦賀港からフェリーに寄せ20時間かけて北海道苫小牧東港に到着し大会をスタートさせました。今大会、我々にとっては前週に関西サッカーリーグ1部で7位となり1部残留という目標が達成できずにいました。そのためこの大会に3年連続優勝と9度目の日本一を達成すべく選手達が熱い気持ちを持って望んでくれました。昨年度のチームは、関西サッカーリーグ2部を爆発的な得点力で勝ち上がり1部へ昇格し、この専門学校大会も決勝戦で9対0と大差を付けての優勝を勝ち取っています。今年のチームは、昨年のチームと違い爆発力はないが、我慢強さと徹底力があり安定したゲーム運びで予選・決勝トーナメントを通じ34得点、失点1の最小失点で優勝を勝ち取ることができました。大会全般としては、今大会ベスト4が全て関西勢となり、13大会連続で関西勢の優勝となっております。関東、九州、東北代表の各チームの中には個の能力が高く、ユース出身者や高校選手権出場者などを揃えた優れたチームが数多くありましたが準々決勝で関西勢に敗れ大会から姿を消すことになりました。この現状は、関西地域では、専門学校が社会人リーグに所属して年間を通してリーグ戦を戦うことで勝負強さを身につけて大会に臨むことができていることが一番の要因ではないかと感じました。他地域でも専門学校生の社会人リーグへの参加を認めてもらえれば全国的に専門学校のレベルが高まるのではないかと考えています。指導者も近年はS級指導者、Jリーグチームから指導者を連れてくる専門学校や専門学校連盟枠でB級コーチを毎年2名ずつ育成しながら指導者養成にも力を注いでいます。これから専門学校のサッカーが注目され発展するようにルネス学園も力を注いでいきたいと思います。

最後になりましたが、大会参加に当たり多くの激励を頂きありがとうございました。



第 47 回全国中学校サッカー大会を終えて

大津市立仰木中学校サッカー部 監督 田中 裕也

富山で行われました、第47回全国中学校サッカー大会に関西ブロック代表(5チーム)として出場いたしました。近畿大会を3位で通過し、2年ぶり3回目の出場となりました。素晴らしいピッチと天気の中行われた8月21日(日)の1回戦で、先制はしたものの後半に逆転され、関東ブロック代表の鹿嶋市立鹿島中学校に1-2で敗れ、7月21日から始まった長い夏を終えることとなりました。この1ヶ月の間に、大津市の大会で4試合、県大会で4試合、近畿大会で3試合、全国大会で1試合と計12試合を戦って行く中で、選手たちがチームとしてはもちろんのこと、個人としてフィジカルやテクニック、さらにはメンタル的にも成長していく姿がピッチの上にはありました。苦しい試合ばかりでしたが、その中で、ピンチをチャンスに変える力、そして仲間を信じて走り抜くことをやめなかったことが、このチームが掲げた目標の「全国出場」を達成できた要因の1つだと思います。暑い中でも心を整えて、良い顔でサッカーをしている時の選手たちは、見ている側も驚くようなプレーを見せてくれました。



厳しいプレッシャーや緊張の中でも自信を持ってプレーすること、またその中でも速く的確に判断し、ボールもメンタルもコントロールすることの質の高さが、全国で勝利を手にするチームにはありました。このことも含めて、様々な立場で吸った空気や感じたことを、日頃の練習でどれだけ意識していけるか、そして日々のトレーニングの中で厳しいプレッシャーの状況や雰囲気をもっと作っていけるかが、これから大切になってくると思います。選手たちには、この貴重な経験を次のステージや新チームで活かしてほしいです。また我々指導者もこの全国の舞台で感じた事を大切に、多くの人に伝えたいと思います。2年連続でこの舞台に立てるように指導していきたいです。本当に選手たちには感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、保護者の皆様、関係者の皆様にはたくさんの激励やサポートをしていただきましたことを心よりお礼申し上げます。

SuperSportsXEBIO 第 17 回地域フットサルチャンピオンズリーグを終えて

あがりゃんせフットサルクラブ

第17回地域フットサルチャンピオンズリーグが2月17日～19日まで愛知県を中心に開催されました。この大会は、全国の9地域リーグを勝ち抜いた16チームが参加し、地域の日本一を決定する大会です。あがりゃんせフットサルクラブは、SuperSportsXEBIO関西フットサルリーグ1部において、7勝2敗2分の成績であり、関西リーグ昇格3年目で準優勝し、関西地域第2代表として本大会に出場しました。

大会は、4チーム4ブロックに分かれ予選リーグを行い、各ブロック1位が決勝トーナメントに進み優勝を争います。あがりゃんせフットサルクラブはCブロックで、ファイルフォックス府中(関東地域第2代表)、ランプレッタ福岡(九州地域第1代表)、LuchaBrillo(四国地域代表)の4チームとの組合せで、試合は、17日予選2試合、18日午前予選1試合、午後から準決勝、19日に決勝(Fリーグの前座試合)という今までにないレギュレーションでした。

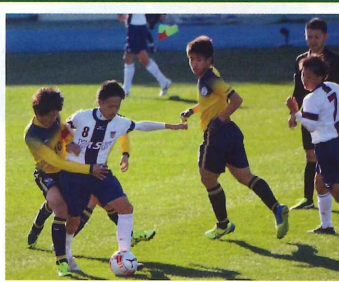
17日の第1戦は、LuchaBrilloとの対戦でした。前半は硬さがあつたのか、追加点をあけても直ぐ1点差に追いつかれる状況にあり、ここで突き放せなくては後の試合も勝ちきれないと、ハーフタイムで全員が再確認した結果、6-3で勝利しました。

第2戦は、優勝候補にも上げられるファイルフォックスを6-1という大差



第 95 回全国高等学校サッカー選手権大会を終えて

滋賀県立野洲高等学校サッカー部 監督 長瀬 慎吾



第95回全国高等学校サッカー選手権大会に滋賀県代表として出場いたしました。今大会で10度目の出場となりました。過去には第81回大会でベスト8、そして第84回大会では優勝し、全国に「野洲スタイル」を見ていただけるようになりました。しかし近年は苦戦が続いており、前回大会は1回戦で宮城県聖和学園高校に1-7で敗れるという非常に悔しい経験もしております。今年は、滋賀県勢としては初めての開幕戦の舞台に立たせていただくということもあり、まずは初戦突破を目標に大会に臨みました。

12月30日、開会式が行われた後の駒沢陸上競技場で、しかも相手は地元東京代表の関東第一高校ということで観客も非常に多く、たくさんの方に注目していただける最高の舞台で試合をすることができました。前半立ち上がりは、やはり様々なプレッシャーから動きが硬い部分もありましたが、次第に舞台に慣れ、徐々に自分たちのプレーをピッチ上で表現できるようになりました。主導権を握れるようになってからは幾つも決定機を作り出せましたが、相手の堅い守りと最後の粘りもあり、なかなか得点とまではいきませんでした。後半に入っても攻撃の手を緩めずに攻め続けましたが、ゴールネットを揺らすことはできず、逆に一瞬の隙からカウンターを受け、結果的にPKを決められて0-1となり、その後も自分たちのスタイルを貫き攻め続けましたが、最後までスコアは変わらず試合終了となりました。

今大会を通じて、選手は一貫して「野洲スタイル」を貫き、観ている人を魅了するサッカーを展開することができたと感じています。しかし、勝負の世界は非常に厳しく、全国大会の舞台での「1点の重み」というものを痛感させられた大会でもありました。今後の課題としては、この「野洲スタイル」を貫きながら最後の局面でいかにしてゴールを決めきるか、逆に一瞬たりとも隙を見せずにいかにして失点せずに試合を終えられるかという、ゴール前の質を高めていく必要があると感じました。

今大会で選手も指導者も非常に貴重な経験をさせていただきました。今後も野洲が野洲であるために、ピッチ上だけでなく日常生活からすべてを見直し、一廻り成長した選手とともに、もう一度全国の舞台で「野洲スタイル」を発揮できるよう、日々努力をしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回多くの皆様よりたくさんのご支援、ご声援をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

第 40 回全日本少年サッカー大会を終えて

亀山サッカースポーツ少年団 代表/監督 西澤 武彦

昨年12月25日～29日に鹿児島県で開催されました、第40回全日本少年サッカー大会決勝大会に、チーム創立37年目にして、初の全国大会出場を果たすことができました。12月25日早朝に出発し鹿児島県で新幹線移動し、移動疲れもなくリラックスした様子で午後からの開会式に出席し、ゲストに鹿児島県出身元日本代表前園真聖氏が来られていて全国大会の雰囲気を味わいました。



翌26日に行われた、第1戦は東京都代表/府中新町FC(今大会3位)と対戦しましたが選手の動きが悪く硬さがみられ1-2で初戦を落とし、第2戦は同日午後から石川県代表/ティヘンズFC金沢と対戦、第1戦の反省を生かすこともでき2-1で初勝利を上げることができました。

第3戦は翌27日に行われ、大量得点での勝利でワイルドカード方式のラウンド16進出の可能性を残して、三重県代表/ラビド名張FCと対戦し前半2点先制し、後半を迎えましたが逆転をされ2-3で敗戦となりました。

3試合の結果、1勝2敗(5得点6失点)、グループ3位で第1ラウンド敗退となり、目標としていたラウンド16に届かず、悔しい思いをしましたが、亀山らしいサッカーができる時間帯もあり、堅守速攻型の満足のできる点の取り方ができました。反省点は決定力のなさ、フリーキックのアイデアと精度が足りなかったと感じています。失点6点のうちPKで3点、フリーキックで1点、ロングスローで1点と試合の流れからの失点ではなく、セットプレーからの失点に苦労しました。PKは微妙な判定で、滋賀県内では見逃されるようなファウルでも、しっかりと取られ全国大会とのギャップを感じましたが、滋賀県勢でもベスト4～ベスト16まで狙える力は、十分にあると感じました。

しかしながら、まだまだ個の力の差を感じる部分もあり、特にシュートレンジの広さには驚かされました。体が大きいからではなく、小さい選手でも蹴る技術の高さに大きな差を感じました。

個の技術という部分で、ドリブルなど運ぶ技術が目立ちますが、止める技術・蹴る技術・奪う技術と全体的なスケールアップが、全国の舞台で勝ち抜くには必要だと感じております。

選手にとっても、私たち指導者にとってもたいへん貴重な経験をさせて頂き、今回の経験と悔しさから更なる上を経験したくなりました。ひと回り成長した選手を育成し、また、この舞台に立てるように、力を尽くしたいと思います。

最後になりましたが、関係者各位の皆様には様々なご支援ご声援賜りました事を厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

で破った九州のランプレッタ福岡との対戦で、我々は、翌日に繋げるためにも何としてでも勝たなくてはいけない試合でした。前半は不運なオウンゴールもあったが、2-1のリードで折り返しました。関西リーグでの勝ち試合は必ず前半リードの試合であったが、ただ、この日だけはそうはいかず後半は2点差にするも1点差につめられ、その後3連続失点して4-5の敗戦となりました。この結果、ランプレッタ福岡が2日目の予選リーグを待たず1試合残しでブロック1位決定となり、我々の予選リーグ敗退が決定しました。

全試合消化試合となった翌日、我々はファイルフォックス府中と今年度最後の試合ということで、関西2位と関東2位の意地をかけて戦いました。結果は、6-10の敗戦でしたが、特に後半は打ち合いとなる試合で、1勝2敗、Cグループ3位という結果で今大会を終了しました。

この大会で、やはり全国で勝ち抜くには何が必要であるのかを選手個人が課題を持ったと思います。共通理解としては、このレベルの大会で1日2試合走り切れる、その個人の体力とチーム力が必要ということとをさらに認識しました。また来年この舞台に戻る気持ちで、2017年度の関西リーグに向けて頑張っていきます。

最後に、日頃から応援いただいている皆様、また、本大会に向けてご支援いただきましたチームスポンサー様、関西フットサル連盟の皆様、滋賀県FAフットサル連盟の皆様、ありがとうございました。